

食フ、汝南圃史ニ、凡豆俱食、子唯豇豆與刀豆連莢食、而刀豆味全在莢ト云、熟スレバ豆長サ八九分、淡紅色ニシテ光リアリ、一種白花ノ者ハ、豆モ亦白シ、シロナタマメト呼ブ、

〔農業全書^二穀^二〕刀豆

なた豆是を刀豆と名付る事は、劔の形に似たる故なり、三月初うへ、灰にておほひ、古き筵ざれ、其外何にても此類のくさり物など覆をくべし、又種やう、冬より穴をほり、こゑ土を入置春になりて一粒づゝ、目の方を下になしてうへ、少土をかけ、灰にておほひ、土おほくかけず、其上にふるきざうりの類何にてもかるきものをおほひ置、五七日の後は去てよし、めだち出、根葉少生するを見て、糞水をそゝぎ、つる長くなるを待て竹を立、是にまとはせ、又籬をゆひ、かきには、するもよし、風にうごかぬ様につよくすべし、うごけバおほく實ならず、是又肥地に糞を多く用ゆれば、過分に實なる物なり、但かきに種るには、其間を近くうゆべからず、

〔本朝食鑑^一〕刀豆

八升豆 此黎豆也、三月下種、生蔓、其葉如豇豆葉、但文理偏斜、六七月開花、成藤、紫色、狀如扁豆花、一莢十餘長三四寸、大如拇指、有白茸毛、老則黑而露筋、其子大如刀豆子、淡紫色、有斑點、民間食之、味不爲佳、氣味甘微、苦温、有小毒、主治未詳、

〔農政全書^二十六〕黎豆 古名狸豆、又名虎豆、其子有斑、如虎狸之斑、故名、爾雅所謂攝虎、桑三月下種、蔓生、江南多炒食之、

〔物類稱呼^三〕生植、黎豆、るんげんさ、げ 近江にてはつしやうまめと云、關西にてふぢまめといふ、西國にててうせんさ、げと云、勢州白子にてなたまめといふ、同名有、混す、伊勢駿河にてにどなりと云、奥之南部にてさ、げと云、此所にていふ、下總佐倉にてせんだいさ、げといふ、東上總にて二度十六といふ、

〔大和本草^四〕黎豆 又名狸豆 案本艸蔓如葛子如皂莢子、作狸首文、莢有毛刺、六七月開花、成簇紫色、狀如扁豆花、一莢結莢十餘、長三四寸、大如拇指、有白茸毛、老則黑、而露筋、國俗天竺豆、藤豆ナド云

黎豆